

科目名	人体の構造Ⅱ			ナンバリング	ZBA213	授業形態	講義
対象学年	1 年	開講時期	後期	科目分類	必修	単位数	2 単位
代表教員	楊箒隆哉	担当教員					

授業の概要	人体の構造Ⅰに引き続き、人体を構成する器官・器官系のうち、呼吸・循環器系、消化器系、泌尿・生殖器系の基本的構造について学ぶ。これらの系は、人体の恒常性維持、すなわち生命維持において重要な機能を有する臓器を包含し、植物機能を司る系とも呼ばれている。これらの構成要素の体内での相互位置関係や、臓器一つひとつの構造を学ぶことで、単なる部位名称の暗記に留まらず、ヒト一個体での「システム」としての連携した形態と機能の理解、および機能を含めた臨床に繋がる有機的な植物機能の理解を目指す。						
到達目標	1. 呼吸器系の構成と各器官の構造を理解する 2. 心臓のポンプとしての構造、および動脈、静脈、毛細血管の構造の特徴を理解する 3. 消化器系の構成と各器官の基本的な構造を理解する 4. 泌尿器系の構成と各器官の基本的構造を理解する 5. 生殖器の構成と各器官の基本的構造を理解する						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	人体の構造Ⅰと同様、ヒトのからだについて立体的なイメージを持つために、教科書だけではなく、図書館にある専門書やDVDなどの視聴覚教材も積極的に活用して予習してほしい。 また、各器官の名称やその役割を覚えるために、必ず復習し、生理学などの授業とも連携して学習すると効果的である。						
ディプロマポリシーとの 関連	【健康医療科学部作業療法学科のディプロマポリシー】						
	1	広い視野と豊かな教養に基づき、健康の維持・増進およびリハビリテーション専門職の担い手としてふさわしいヒューマニズムと倫理観を身につけている。					
	2	地域に住む孤立しがちな人びとや、心身および生活上の障害を抱えた人びとの個別な健康・医療課題を的確に把握し、子どもから高齢者に至るまでその人らしく生活できるように、その生活支援や就労支援を行うことで、積極的に地域貢献できる能力と態度を身につけている。					
	3	健康・医療に関わる課題を解決するために、作業療法の専門的な過程を用いて根拠に基づいた科学的思考が展開でき、優れた作業療法技術を駆使して生活能力の再獲得への支援ができる。					
	○ 4	健康・医療に関わる作業療法の専門家として科学と健康・医療の進展に対応するために、生涯にわたって持続可能な主体的且つ能動的な学修ができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
1. 呼吸器系の構成と各器官の構造を説明できる 2. 心臓のポンプとしての構造、および動脈、静脈、毛細血管の構造の特徴を説明できる 3. 消化器系の構成と各器官の基本的な構造を説明できる 4. 泌尿器系の構成と各器官の基本的構造を説明できる 5. 生殖器の構成と各器官の基本的構造を説明できる	1. 標準的な到達レベルに達した上で、各器官の役割と構造との関連性を説明できる。 2. 器官同士のつながりや連携について説明できる

成績評価観点	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
評価方法							
定期試験(中間・期末試験)	●	●					60%
小テスト・授業内レポート							
宿題・授業外レポート	●	●	●		●		30%
授業態度・授業への参加			●	●			10%

課題、評価のフィードバック	manab@IMUを使用するなどして、個別にフィードバックを行う。
---------------	-----------------------------------

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	呼吸器の構造1	呼吸器の全体像を理解し、鼻腔から気管支に至るまでの気道の構造について学習する	
	第2回	呼吸器の構造2	胸郭と肺の構造を学習する	
	第3回	呼吸器の構造3	肺の微細構造と呼吸膜について学習する	
	第4回	循環器の構造1	循環器の全体像を理解し、心嚢と心膜の構造について学習する	
	第5回	循環器の構造2	心臓の構造を知り、心房、心室、弁などの名称と特徴について学習する	
	第6回	循環器の構造3	動脈と静脈の構造について学習する 毛細血管の微細構造を知る リンパの循環について知る	
	第7回	消化器の構造1	消化器系の全体像を知り、口腔、咽頭、食道の構造を学習する	
	第8回	消化器の構造2	胃、小腸、大腸の構造について学習し、各消化腺とそこから出る消化液について理解する	
	第9回	消化器の構造3	肝臓、胆嚢、膵臓について学習する	
	第10回	泌尿器の構造1	泌尿器の全体像を知り、腎臓の構造について理解する	
	第11回	泌尿器の構造2	腎臓の微細構造を学習する	
	第12回	泌尿器の構造3	尿管、膀胱、尿道の構造について理解する	
	第13回	生殖器の構造1	男性生殖器の構造を知ると共に、精子の構造を学習する	
	第14回	生殖器の構造2	女性生殖器の構造を知るとともに、卵子の構造と受精について学習する	
	第15回	まとめ	人体の構造Ⅰ・Ⅱを通してのまとめと復習を行う	
	試験	期末試験を実施する。また、授業外でレポートを課す。		
授業の進め方		人体の構造Ⅰと同様、教科書に基づいた講義を主体とするが、必要に応じて視聴覚教材を用いた授業や、実体模型を用いたグループ学習などを行う。		
授業外学習の指示		図書館等で、人体、解剖学に関するDVDの視聴や、カラーアトラスなど専門図書による予習(90分)・復習(90分)をして授業に臨む (授業外学習時間： 毎週 180 分)		

教科書	シリーズ監修:奈良 勲／鎌倉 矩子，編集:野村 巖，標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 「解剖学」 第4版 2015年01月発行， 定価 6,480円（本体6,000円＋税8％）， ISBN978-4-260-02008-4
参考書	リチャード・L・ドレイク 著 「グレイ解剖学」原著第3版(日本語版) ISBN 13-9784860343064，12,960円(税込) F.H. Netter 著 「ネッター解剖学アトラス」 原書第6版 ISBN: 978-4-524-25967-0，10,800円(税込) 坂井 建雄、河原 克雅 「人体の正常構造と機能」全10巻縮刷版(改訂第2版)ISBN:978-4-7849-3180-4，19,440円(税込)
参考URLなど	授業中に紹介する
その他	